



介護あんしん 相談員だより

第16号 平成27年5月発行
発行：鳥栖地区広域市町村圏組合
(介護保険課 地域支援係)
連絡先：0942-81-3111

介護あんしん相談員は橋渡しをします！

施設に入居していると、ちょっとした不満や不安があっても、直接スタッフに言うことを遠慮してしまうことがあります。介護あんしん相談員はご本人やそのご家族が施設職員に直接は言いにくいことをお聞きしたり、客観的な目で見えて気づいたりした点を施設側に伝えて問題の解決をはかります。



利用者さんや介護あんしん相談員の声からいくつかご紹介します
(平成27年2月)



～介護あんしん相談員の声より～

相談員：ボランティアの方がいらっしゃるのですね。

施設：地域包括支援センターからのご紹介で、近くにお住まいの方(2名)が本日より、施設内の環境整備や傾聴ボランティアとして、週に1回来て頂いております。今後もボランティアの受け入れを積極的に行っていきたいと思えます。



【鳥栖地区広域市町村圏組合より】

ボランティアで施設内の環境整備や傾聴ボランティアとして来て頂いているという事は、とても素晴らしいことですね。

介護あんしん相談員と傾聴ボランティアとは、役割が同じように思われている方がいらっしゃると思います。

傾聴ボランティアの役割は、利用者の話をひたすら聞き、心の安らぎをもたらすことだと思います。それに対して、介護あんしん相談員の役割は利用者の話を聞き、心の安らぎをもたらすことはもちろんのこと、そこをスタートとして利用者の話しの内容から、介護サービスの改善や環境の改善などにつなげていくことです。

事業所によっては、利用者から「まわりが認知症の人ばかりで、話し相手が一人もいない」「まわりが女性ばかりで、話しが合わない」という声もあります。そのような時に傾聴ボランティアの方がいらっしゃったら良いのではないのでしょうか。

こちらの施設のように、地域との連携を図っていければいいですね。

相談員：利用者と友達のように声かけ合って良いですね。

施設：その時々、職員はいろんな役を演じて、上手に付き合っています。



【鳥栖地区広域市町村圏組合より】

施設職員は工夫をしながら、その人を尊重しいろんな役を演じて利用者の対応をされているのですね。

認知症の方は、昔のこと、特に人生の中で一番輝いていた頃の記憶が残っていると聞いたことがあります。

例えば、学校教諭だった方は、施設の事務所が職員室と思われるようです。もちろん話し合いは職員会議です。若いスタッフは生徒であったり、又は同僚であったりするように。利用者がこれまでどのような人生を送って来たかを知ることが、上手に付き合っていく1つの方法なのかも知れません。

こちらの施設では、利用者さんも安心して穏やかに日々を過ごされているのではないのでしょうか。今後ともよろしく願いいたします。



～利用者さんの声より～

利用者：「外に出たい」

施設：暖かくなったら、花見ドライブなどの計画はありますが、随時希望時に外にお連れするのは難しいです。家族様と外出されるのは良いですが。



【鳥栖地区広域市町村圏組合より】

「外に出たい」という声は各施設の利用者の方から報告があります。

寒い季節には特に外に出ることが難しかったのではないのでしょうか。スタッフも利用者が熱を出したり、風邪でもひいたら大変だという気持ちがあったと思います。

これからは、季節も良くなり外に出る機会も多くなるのではないのでしょうか？

私たちも、毎日部屋の中にもって外に出られない状態が続いたら“いらいら”しますね。

お天気が良かったら、外に出て深呼吸をただけでもリフレッシュ出来ます。車で遠くに行かなくても、お買い物に行かなくても、一歩外に出て“風”“光”を感じてもらいたいと思います。

スタッフの方も多忙の中、大変だと思いますが、利用者の笑顔をたくさん見る事ができるような取り組みを継続していただけたらと思います。



わたしたち、介護あんしん相談員は一人一人の小さな思いを、お伝えします。